『私のふるさと　長野県上田市：子供のころの想い出』

皆さん　一度は長野県に旅したことがあると思います。今年はNHK大河ドラマ“真田丸”が放映となり、上田は観光客でにぎわっているようです。戦国時代の名将として知られる真田幸村も居城にしたというのが上田城です。城址公園、市立博物館が残っています。私の主人・康裕は旧制中学、高校と６年間、上田城址グラウンドを通学コースとして通いました。上田高校の門は上田城主の屋敷門が正門として使われています。

上田城 東虎口櫓門

上田市といっても町村合併で大きくなり、南は美ヶ原から菅平高原、塩田平も現在は上田市です。大正から昭和にかけて岡谷－上田－丸子は養蚕の盛んな町でした。

依田川の清流

私の生まれた丸子町は山に囲まれ、千曲川の支流、依田川の清流と鹿教湯（かけゆ）温泉があります。家から見える山々は東に浅間山、南に美ヶ原、北に烏帽子岳、菅平と続き、朝夕に眺めていたので、山の稜線まではっきりと頭の中に残っています。　自然に恵まれた子供時代は川遊び、登山は当たり前、野山を駆けまわり元気に育ちました。

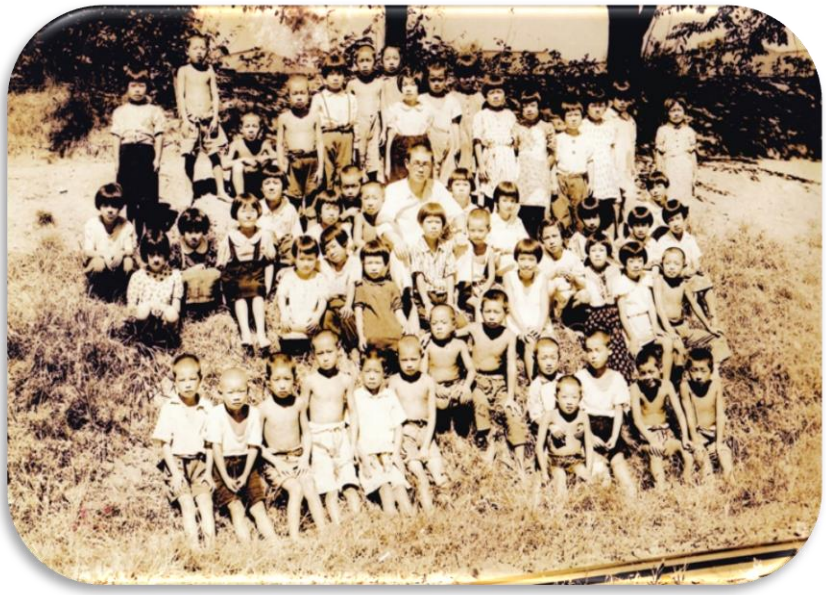
国民学校４年生（９歳）の時に終戦を迎えました。

２年生の頃から戦争が激しくなり、東京からの疎開学童が増え、ひとクラス５０人～６０人となり、１学年５クラスと大変賑やかな学校になりました。

夏休みには５年生、６年生は乾燥させた“よもぎ”一人１貫目（3.75kg）とその他桔梗の根、ワレモコウの根などを学校に持って行く宿題でした（薬にしたのかと思います）。又、運動会では校庭がさつまいも畑でしたので、その周りを走りました。
（道路の端にも大豆が植えてありました）。

下の写真は二年の夏、担任の先生が召集されて戦地に行くことになり、記念撮影をした想い出の写真です。当時は、女の子はゆかたの布、又は着物から作ったモンペ、ワンピースを着ていました。男の子はやぶれたズボン、夏だったので、上はほとんどはだか、ズボンにベルトをしている子はいませんでした。わらの縄か紐でした。
今では想像も出来ません。物のない時代でしたが、みんな元気で仲良しでした。
（先生は終戦後、戦地から無事帰ってこられました）。

次の担任の先生は 17～18 歳位の旧制中学卒の代用教員の青年でした。
よく鬼ごっことか、かけまわって遊んでくれました。
昼休みには本を読んでくださいました。
　先生の周りに黒山のように集まり“ジャンバルジャン”の続きを聞くのが楽しみでした。皆じっと聞き入り、何よりも楽しいひと時でした。



２年生の夏（昭和１８年）の記念写真

ある日、周りを囲んでいた生徒の頭から落ちたのか、先生の頭の首のあたりに“しらみ”がゆっくり歩いていました。それを見ながら“ジャンバルジャン”に聞き入っている情景を今でもはっきりと思いだします。

みんな仲良しでした。大人になってからも毎年級会を続けて、この時代を懐かしく語り合っています。

平成２８年９月　酒井　順子